

日本学術会議公開シンポジウム

最終氷期以降の日本列島の気候・環境変動と人類の応答

2023（令和5）年6月11日（日）13:00～17:20
オンライン開催（事務局主会場：島根大学）

【開催趣旨】今よりも暖かかった12万年前の最終間氷期を過ぎると、地球は最終氷期と呼ばれる寒冷な気候に移行しました。ヒト（現生人類）は、この最終氷期にアフリカを離れユーラシアへ、またオセアニアや南北アメリカに広く拡散していきます。日本列島には3万8千年前にヒトが生活していたことがわかっています。最近の十数年間に、古気候、古環境や人類・考古の研究は大きく進展し、多くの新しい発見がありました。本シンポジウムは、人類はどのように気候変動や環境変動に応答し現在に至ったかを、日本列島を中心に古気候、古海洋、人類、考古の各専門分野の最前線で活躍する人たちが、最新の研究成果とともに紹介します。

（世話人：齋藤文紀、出穂雅実）

13:00 開会挨拶・趣旨説明

齋藤文紀 日本学術会議連携会員、島根大学エスチュアリー研究センター長・特任教授

13:10 過去15万年間の気候変動

阿部彩子 日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所・教授

13:30 現生人類がたどってきた道

海部陽介 日本学術会議連携会員、東京大学総合研究博物館・教授

13:50 アイスエイジから現在までの海水準：ヒトは歩いて海峡を渡れたか？

横山祐典 東京大学大気海洋研究所・教授

14:10 最終氷期における日本周辺の海洋環境

郭新宇 愛媛大学沿岸環境科学研究センター長・教授

14:30 休憩

14:40 年縞から見た「暴れる気候」と人間の歴史

中川毅 立命館大学古気候学研究センター長・教授

15:00 日本列島の現生人類文化の出現、定着、変化

出穂雅実 東京都立大学人文社会学部・准教授

15:20 古代ゲノムから見た日本列島の現生人類

太田博樹 東京大学大学院理学系研究科・教授

15:40 休憩

15:50 樹木年輪から見た年から十年単位の気候変動

中塚武 名古屋大学大学院環境学研究科・教授

16:10 縄文・弥生社会の環境構築

松本直子 岡山大学文学部・教授

16:30 総合討論

長谷部徳子 日本学術会議連携会員、金沢大学環日本海域環境研究センター・教授

出穂雅実 東京都立大学人文社会学部・准教授（司会）

17:10 閉会挨拶

諏訪元 日本学術会議連携会員、東京大学総合研究博物館・特任教授

17:20 閉会

主催：日本学術会議 地球惑星科学委員会国際連携分科会、地球・人間圏分科会

共催：日本第四紀学会、島根大学エスチュアリー研究センター

後援：日本考古学協会、日本旧石器学会、日本人類学会、地球環境史学会



お申し込みはこちら

事前登録制（先着500名）、参加費無料
申込先：https://www.leaf2.shimane-u.ac.jp/enquete/no/ingua_symo

申込締切：2023年6月7日（水）

申し込みされた方に、ZoomのURLをお送りします。

連絡先：齋藤文紀（日本学術会議連携会員、島根大学エスチュアリー研究センター特任教授、ysaito@soc.shimane-u.ac.jp）